

米国姉妹都市派遣高校生 渡航レポート

大磯町国際交流協会事務局（柳田宅） ☎090(6003)0422

大磯町国際交流協会から町内在住の高校生3名が7月20日（月）から8月3日（月）までの2週間、米国オハイオ州デイトン市に派遣されました。ホームステイや市民との交流など貴重な体験をされた高校生たちのレポートをご紹介します。

なお、高校生自らがホームステイの様子について報告する「渡航報告会」を10月11日（日）、13時00分から役場本庁舎4階第1会議室にて開催します。どなたでも参加できますので、ぜひご来場ください。

英語「で」学ぶ、心で知る

赤松 翼

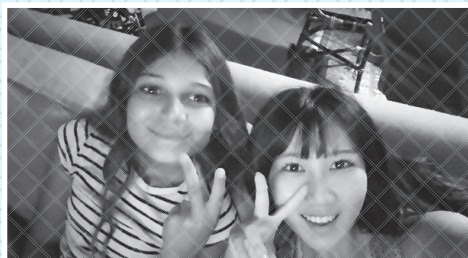


海外で自分の英語力を試すこと、そして「航空の街」デイトンで宇宙・航空分野への学びを深めること、この二つの思いを胸に派遣に参加しました。国立アメリカ空軍博物館では、実機を中心とした圧倒的な展示に心を奪われる一方、第二次世界大戦に関する展示を通して同じ歴史でも立場によって見え方が異なることを深く考えさせられました。また、ホストファミリーの誘いで訪れたコミュニティカレッジでは、英語で行われる物理の授業に参加し、自分の関心のある分野を英語で学ぶことにも挑戦しました。

家庭では、茶会を開き、茶道の作法や「おもてなし」の心も紹介しました。すると後日、ホストファミリーも食事前の祈りなど、自分たちが大切にしている文化や家庭の習慣を紹介してくれました。英語力を試すだけでなく、英語「で」学び、自分から伝え、相手の文化を知ることができたことが、今回の一番の収穫です。今回得た経験を自分の中だけにとどめず、これからの学びや大磯での国際交流にも生かしていきたいです。この貴重な機会を支えてくださった大磯町国際交流協会、デイトン市姉妹都市委員会、ホストファミリー、先生方や先輩方、町民の皆様にご心より感謝申し上げます。

「郷に入れば郷に従え」のその先

山中 准



デイトン市滞在中の私のテーマは、「郷に入れば郷に従え」という考え方は多文化社会でも通用するのか？を体感することでした。初日は同い年の男の子たちと大騒ぎ。言葉が完璧に通じなくても、一緒に笑えば仲良くなれることを実感しました。買い物では店員さんが話しかけてくれ、最後は必ず「Have a nice day!」。日本の接客も丁寧で安心しますが、アメリカでは明るく気さくに接してくれ、自然に感謝や優しさを伝え合う文化が素敵だと感じました。

博物館では、原爆投下に関わった機体の前で嬉しそうに記念撮影をする人々を見て胸が苦しくなりましたが、一緒にいたみんなが私たちの気持ちに寄り添ってくれました。今回見つけた答えは、「郷に入れば郷に従え」だけではなく、お互いの文化や歴史を尊重し、自分の考えも伝えながら歩み寄ることの大切さです。文化交流は平和につながると私は信じています。世界中に友達がいれば「大切な人の国だから」と争いを避けるはず。そして、とにかく毎日楽しすぎた！この経験は私にとって一生の宝物となりました。この姉妹都市交流がこれからも続き、多くの人にも一生の宝物となる経験をしてほしいです。

変わるもの、変わらないもの

吉田 瑞希



デイトンは想像もできない程に遠い場所にありました。地球の反対側と言えるくらいに離れていると食べ物や、植物や、建物など日本での当たり前は一つも通用しません。私が一番驚いたことは日没の時間です。デイトンでは日の落ちる時間が夜の9時と異常に遅いのです。私が行ったことのある国の台湾で日没の時間の違いで驚いた記憶がないため、初めて日没の時間を知った時「ああ、ここは紛れもなく遠い遠い異国の地なんだ」と雷に打たれたような衝撃が走ったのを覚えています。

さて、ここまでデイトンで感じた違いを書いてきたのですが、このページを借りて私が皆様にお伝えしたいことは「人の優しさは変わらない」ということです。日本とは全てが違う土地での2週間、私は人の温かさを何度も感じました。デイトンの人達は驚くほど気軽に声をかけてくれました。私が発表した日本文化に目を輝かせ、楽しんでくれました。だから私は皆様にお伝えしたいのです。もしも街中で外国の方に話しかけられたら、怖がらないでください。例えば英語がうまく聞き取れなくても、何もかも違うように感じられても、その人達は私達と同じように誰かを思いやるその優しさを確かに持っています。

ラシン市から学生が来磯



町国際交流協会では、デイトン市へ3名の高校生を派遣した同時期にもうひとつの米国姉妹都市のウィスコンシン州ラシン市より3名の高校が来磯。7月20日から14日間にわたり、町内のホストファミリー宅にホームステイして交流活動を実施しました。大磯ガイド協会の英語による歴史ガイドや着物・茶道・華道などの日本文化も体験しました。そして滞在中は、多くの町民との交流を深め、大磯の暑い夏を体験し、たくさんの思い出を胸に帰国されました。

